

SCHEDULE

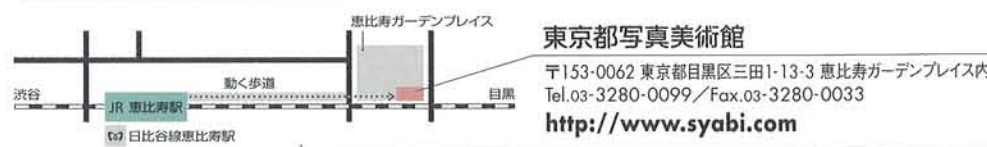
東京都写真美術館展覧会スケジュール

2007	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
8	 森山大道 「にっぽん劇場」より	マーティン・パー写真展 FASHION MAGAZINE 7月7日(土)~8月26日(日)	 ユーザフ・カーフ (アルベルト・ジャコメッティ)	 おやすみ、クマちゃん 8月4日(土)~9月14日(金)
9	「昭和」 写真の1945-1989 第3部 昭和30・40年代② 高度成長期 8月25日(土)~10月14日(日)	 鈴木理策 「熊野、雪、桜」 9月1日(土)~10月21日(日)	キュレーターズ・チョイス 07 「対話する美術館」 8月11日(土)~10月8日(月・祝)	 マザー・テレサ メモリアル 9月15日(土)~
10	 伊奈英次 「IN TOKYO」より	 東松照明 Tokyo曼陀羅 10月27日(土)~12月16日(日)	第18回日本写真作家協会展 第5回JPA公募展 10月13日(土)~10月28日(日)	 国連検察官 カルラの闘い 今秋ロードショー
11	第4部 昭和50年代以降 オイルショックからバブルへ 10月20日(土)~12月9日(日)	 日本の新進作家 vol.6 スタイル/アライヴ 12月22日(土)~2月17日(日)	写真新世紀東京展2007 11月3日(土・祝)~11月25日(日)	MAGNUM PHOTOS 世界を変える写真家たち 12月1日(土)~
12	 土田ヒロミのニッポン(仮称) 12月15日(土)~2月17日(日)	 文学の触覚 12月15日(土)~2月17日(日)	第8回上野彦馬賞展 12月1日(土)~12月9日(日)	
2008				
1				
2				

※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

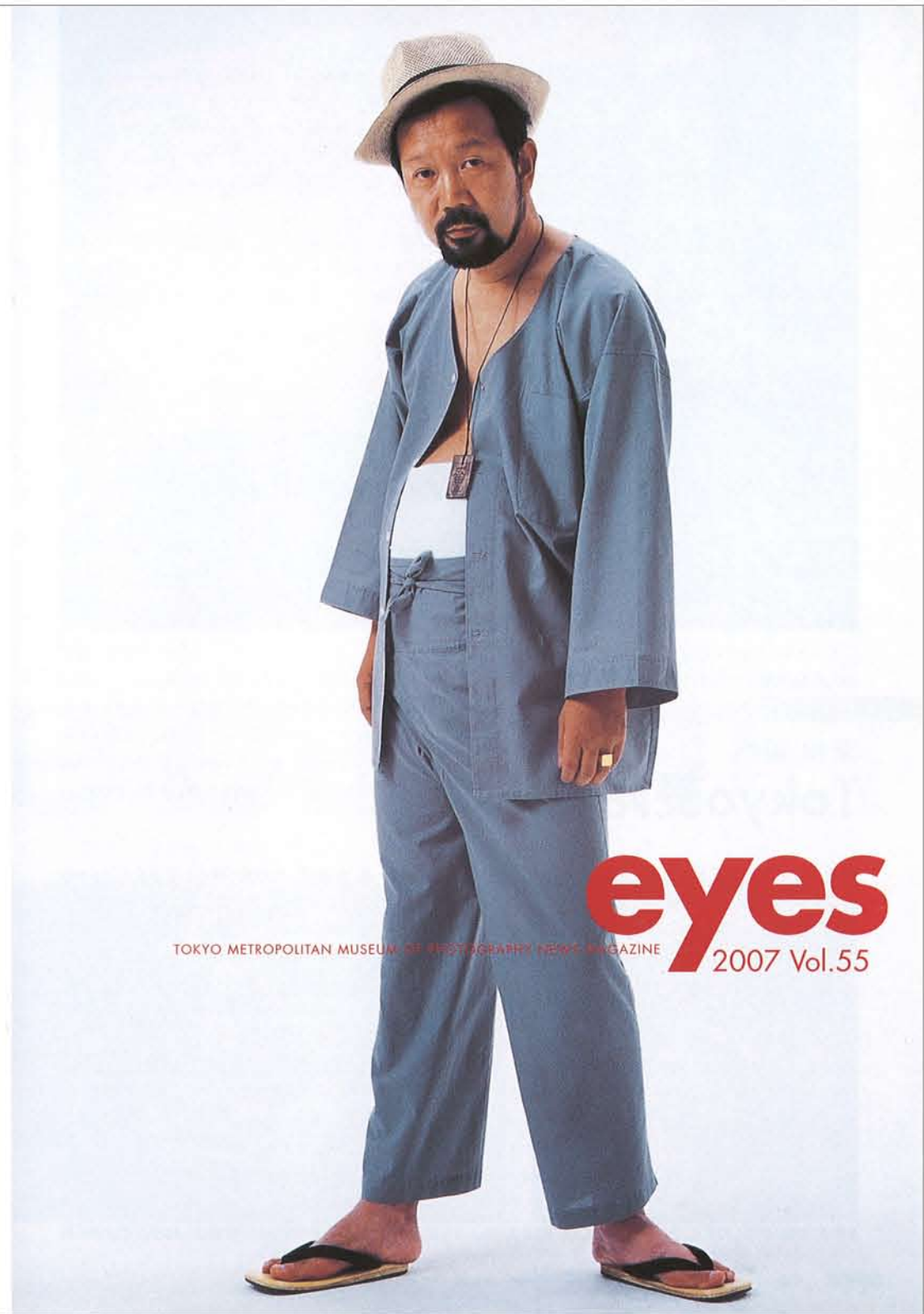
ご利用案内
●休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合、その翌日) ※ただし、10/1都民の日は臨時開館。年末年始
●開館時間：10:00~18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売
お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ07」55号 ●発行日:2007年8月15日 / 企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 ●印刷・製本: JTB印刷株式会社 ●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2007 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。 R270



eyes
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE
2007 Vol.55



「反戦1」東京 1968年 作家蔵

Topics

Tomatsu Shomei

東松 照明 Tokyo曼陀羅

戦後の日本を代表する写真家・東松照明は、名古屋、東京、沖縄、千葉、長崎と拠点を変えながら、日本の写真表現を切り開く重要な作品を次々と発表し、世界的な評価をゆるぎないものとした写真家です。今回は、当館の専門調査員である金子隆一さんに、「曼陀羅シリーズ」を構成する軸ともなった東松照明の写真家としての変遷と魅力について語っていただきました。

名古屋で生まれ育った東松は、1954年に愛知大学を卒業した後、上京し、岩波写真文庫のスタッフに加わりました。しかし1956年からはフリーランスの写真家として活躍を始めます。1957年、写真批評家福島辰夫が企画する「10人の眼」展に参加し、戦後世代の若手写真家として注目を集めます。1959年になると、川田喜久治、細江英公、

奈良原一高、佐藤明、丹野章と作った写真家によるセルフエージェンシー「VIVO」に参加。この時代の代表的な作品としても名高いのが、「<11時02分>NAGASAKI」です。この作品のユニークなところは、なんといっても単に原爆の長崎をとらえたものではなく、江戸時代から続く長崎、都市としての長崎、そして原爆の長崎という複数の時間を重層的に表現したところでしょう。

その後、高度経済成長のなかで様変わりしていく都市を問題とした「I am a King」や「新宿」、基地の風景を写しだした「占領」（現在は「チューインガムとチョコレート」）など、意欲的に作品を発表続けました。そんな東松の興味を大きくシフトさせたのが、1969年に訪問した沖縄でした。戦後社会を色濃く映し出す土地という予想に反した現地の沖縄古来の習俗や宗教儀礼、自然などに強く興

味を抱いた彼は、沖縄に移住し、そこでの暮らしを拠点としながら写真を撮るようになったのです。このときから彼の写真を撮る意味が大きく変わりはじめました。つまり、ただ単に何かを表現するというのではなく、自分自身の全人格、全存在、生きることそのもののメディアとして沖縄という場と写真を撮らせていったのだと思います。同時にこの沖縄での撮影を境にして、モノクロからカラーへの転換もしています。東松にとって、この沖縄という土地は、写真を撮ることの原点を示す大きな経験を可能とした場所でした。その後、いったん東京に戻った彼は、森山大道、荒木経惟らとワークショップ写真学校などの活動を展開し、若い世代の写真家たちに強い影響を与えました。しかし、この頃、東松は大病を患い、九死に一生を得る経験をします。そして、それを機に、療養のため、千葉県上総一宮に居住を移しました。そして、この千葉での生活を通じ、写真を撮ることにおいてもリハビリテーションが行われていったといっよよいのではないかと思います。この時期の作品が、海岸に打ち上げられた漂泊物を真上からとらえた「プラスチック」です。黒々とした砂浜に、まるで星座のように埋まった色とりどりのプラスチックは、まさに80年代を象徴していました。そして現在、東松は長崎に拠点を移し、活動を続けています。

今回の「Tokyo曼陀羅」は、このように撮影拠点を移しながらも各地をめぐる、個別のテーマ性や時代を解体して再構築する東松照明の“曼陀羅シリーズ”の最後に位置するものです。撮影拠点とする場所はあくまでもキーワードにすぎず、例えば東京を拠点としていた時期に取材撮



「オリンピック・カプリチオ1」東京 1962年 東京都写真美術館蔵

影した「恐山」などのシリーズも入っています。

東松照明の作品は、非常に現実性を重視しているため、ときには鋭利な刃物で切られるような痛みを伴います。現在、携帯電話などで撮影される可愛い画像の対極にあるといってもいいでしょう。ですから、安易な美しさを求めたときには裏切られると思います。それほど重く、厳しい表現で私たちに問題を投げかける作品なのです。どんなに抽象的に見えたとしても、よく見れば、それが日常的で極めて現実的なものの集積でしかないと分かります。それは、静止した写真というものでしか表現できなかったものなのでしょう。



「チューインガムとチョコレート」北海道・千歳 1959年 東京都写真美術館蔵



「ゴールデン・マッシュルーム3」1990-91年 作家蔵

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

10月27日(土) ▶ 12月16日(日)

東松照明「Tokyo曼陀羅」

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：(財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/読売新聞東京本社/美術館連絡協議会
○特別協賛：キヤノン株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社
○協賛：ライオン/清水建設/大日本印刷/東京電力 ○協力：フォト・ギャラリー・インターナショナル

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>



「アリアバイ2 俳優 高橋美智子」東京 1978年
東京都写真美術館蔵



「ファッション」東京 1955年 作家蔵

東松照明は1950年代から今日に至るまで、さまざまな作品シリーズを発表し続け、名古屋、東京、沖縄、千葉、長崎と拠点を換えながらつねに日本の写真表現を切り開いてきた、戦後を代表する写真家です。

本展「Tokyo曼陀羅」は、「長崎マンダラ」(長崎県立博物館・2000年)、「沖縄マンダラ」(浦添市美術館・2002年)、「京まんだら」(京都国立近代美術館・2003年)、「愛知曼陀羅」(愛知県美術館・2006年)と、撮影拠点をキーワードに個別のテーマ性や時代性を解体して再構成する「曼陀羅」シリーズの最後に位置するものとなります。作品としては、20代から60代まで、東京を拠点として千葉、神奈川など関東一円

で撮影された作品「占領」、「アスファルト」、「I am a King」や「新宿」、「プラスチック」、「インターフェイス」など、東松の写真世界を代表する著名なシリーズに加えて、同時期、やはり東京を拠点に各地での取材撮影でとらえた「恐山」や「桜」など重要なシリーズも展示いたします。また、今回あらたにネガにまで遡って選り出された未発表作品を含め、当館のコレクションと新たにインクジェット・プリントで制作したものを合わせ、約300点で構成。それらの作品からは、日本を見つめ、日常と一体となりながら写真との関係性を表現し続ける写真家・東松照明のまなざしの原点と現在が浮かび上がるに違いありません。ぜひ、この機会にご鑑賞ください。

B1F・4F

地下1階映像展示室・4階図書室
Images & Technology Gallery・Library

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

8月11日(土) ▶ 10月8日(日)・(祝)
10月1日(月) 都民の日は臨時閉館(観覧無料)

キュレーターズ・チョイス07 「対話する美術館」

専門スタッフが選ぶこだわりの作品から知られざる傑作、珍品を一挙公開!

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都 東京都写真美術館

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

東京都写真美術館では、展覧会の実施、写真映像作品・資料の収集、教育普及事業、図書室の運営、写真の保存についての科学的な研究などに、学芸員をはじめとする様々な専門的な職員が従事しています。

このような専門スタッフが、日頃の研究や事業を企画・運営するなかで培った個性的な視点にもとづいて収蔵作品をセレクトする「キュレーターズ・チョイス07」は、テーマを「対話する美術館」と題して、作家や作品との対話、そしてご来館いただくお客さまとの対話を実践し、写真美術館の魅力に迫ります。

2万3千点余にのぼる収蔵作品・資料と、約5万4千点に及ぶ図書の中から、通常の企画展ではなかなか見ることのできない傑作約190点をどうぞお楽しみください。



「真夏の午後 中国・重慶」レオ・ルビンファイン 1986年

猛烈な勢いで発展をとげる現代中国。この中国の圧倒的な生命力とパワーは今に始まったことではなかった。彼らのリアルな生活や臭いを撮ってきた写真家の視線から、その謎に迫る。チョイスした人_石田 留美子(専門調査員)



「展望台からのナイアガラ滝の眺め」
プラット・D・ハビット 1855年

最も初期の観光写真と言われる手彩色のダゲレオタイプ。力強く広大な自然との対話は人々を魅了させる。チョイスした人_神保 京子(学芸員)



「手」
ラスロ・モホイ＝ナジ 1926年

モホイ＝ナジは、写真で絵画に迫ろうとした。だが、その試みは却って光が演ずるドラマを輝かせることになったのだ。チョイスした人_福原 義春(館長)



「美術館にいこうよ!」
エリオット・アーヴィット 1998年 クレオ刊

プロの写真家だが趣味もアマチュア写真家である事だというアーヴィットの美術館巡り、思わず頷かれます。チョイスした人_柴崎 夏子(図書室司書)

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

8月25日(土) ▶ 10月14日(日)
10月1日(月) 都民の日は臨時閉館(観覧無料)

昭和 — 写真の1945-1989 —

第3部「高度成長期」昭和30年～40年代 Part.2

- 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円
□ 中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催：東京都 東京都写真美術館
○協賛：凸版印刷株式会社
○協力：恵比寿ガーデンプレイス株式会社/
フォト・ギャラリー・インターナショナル/新潮社

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>



奈良原一高 「人間の土地 緑なき島・軍艦島」より 昭和29-32(1954-1957)年

生活や都市の風景が急速に変化を遂げ、それに伴い人々の価値観も激変した高度成長期。「昭和」展シリーズの第3部は、昭和30年代～昭和40年代までを、3つのテーマに分けてご紹介いたします。パート1では、豊かさの一方で起こる公害や安保などの社会問題を取り上げ、冷静な視点で見つめ浮き彫りにした新しい社会的ドキュメンタリー写真の台頭を取り上げます。パート2では、戦前の写真家とは断絶した立場で、これまでの単純な方法では捉えきれ

なくなった時代や社会に対する表現方法を試みる戦後派(アプレ・ゲール)に注目します。パート3では、新しい思想やライフスタイルなど、価値観の急激な変化によって個人化してきた写真表現の真意に迫ります。

■第3部出品予定作家

荒木経惟、石元泰博、英伸三、川田喜久治、北井一夫、森原史成、牛腰茂雄、小原健、西田隆、高梨豊、田沼武能、田村茂、田村彰英、常盤とよ子、内藤正敏、長野重一、奈良原一高、東松照明、深瀬昌久、細江英公、森山大道、柳沢信ほか



田沼武能 落書き遊びも危険になった 東京、台東 昭和34(1959)年



長野重一 5時のサラリーマン 「ドリームエイジ」より 昭和34(1959)年

→「第3部」担当学芸員による展示解説

「第3部」展覧会開催期間中の第2・4金曜日16時～担当学芸員による展示解説を行います。

→連続講座「昭和の写真史」開催!

第3回：「高度成長期」昭和30・40年代 Part.2
9月14日(金) 18:00～ 講師：吉増剛造(詩人)

第4回：「オイルショックからバブルへ」昭和50年代以降
10月26日(金) 18:00～ 講師：大島洋(写真家・九州産業大学教授)

受講料：各回とも無料(この講座では、新潮社「昭和の風景」を副読本として使用します。お持ちでない方の受講には、資料代2,100円(税込)が必要になります。)

会場：東京都写真美術館 1階アトリエ 定員：40名(当日先着順)

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

10月20日(土) ▶ 12月9日(日)

友の会無料
三越カード割引
アトレカード割引

昭和 — 写真の1945～1989 —

第4部「オイルショックからバブルへ」昭和50年代以降

- 一般 500円 □ 学生 400円 □ 中学生以下・65歳以上 250円

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

経済の低成長が恒常化し、戦後派世代が「ニューファミリー」と呼ばれ、世代構成の中心を担うようになりました。その中で地域社会だけではなく、家族までもが崩壊し、個人主義が蔓延する中、写真家たちの視線は、自らの内面を見つめ、社会に孕む問題を作品の中に写し込んでいきました。

■第4部出品予定作家

石内都、伊奈英次、大西みつぐ、尾仲浩二、小林のりお、鎌賀雄二、柴田敏雄、島尾伸三、須田一政、築地仁、土田ヒロミ、橋口譲二、畠山直哉、宮本隆司、山内道雄、山崎博、渡辺兼人ほか



荒木経惟 「写真論 1988-1989」より 平成元(1989)年



宮本隆司 筑波科学博覧会「バヴィリオン」筑波 「建築の黙示録」より 昭和60(1985)年

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

9月1日(土) ▶ 10月21日(日)
10月1日(月) 都民の日は臨時閉館(観覧無料)

鈴木理策:熊野、雪、桜

Suzuki Risaku: kumano, yuki, sakura

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催: 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社
○協賛: 株式会社資生堂/凸版印刷株式会社/ラブリークィーン株式会社
○助成: 芸術文化振興基金/財団法人アサヒビル芸術文化財団
○協力: 熊野本宮大社/熊野速玉大社/熊野那智大社/ギャラリー小柳/フォトグラフアーツ・ラボラトリー ○後援: 和歌山県/三重県

詳細ホームページ: <http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>



《唯一の時間》2004年 ©Suzuki Risaku



《桜》2007年 ©Suzuki Risaku

国際的に活躍する中堅作家個展シリーズ第一弾として、鈴木理策の仕事をご紹介します。鈴木理策は1963年和歌山県新宮市、熊野三山で知られる熊野速玉大社がある神倉山の麓で生まれました。現在は東京を拠点に活動しており、1995年頃から故郷、熊野を繰り返し撮り続けています。作品は、自らのまなざしの軌跡をそのまま写真に残したもので、作画的な構図や説明的要素を一切排除したものです。これらの写真を前にすると、私達は作家と共にその場にたたずんでいるような錯覚に陥ります。

今回は、作家のライフワークとなるシリーズ、熊野をモチーフにした《海と山のあいだ》等、吉野桜を中心とした《桜》、北海道十勝岳の雪を主とした《White》より、2007年に制作された新作を中心に展示いたします。《White》は本展覧会で初めて発表する新シリーズです。

展示空間は、作家が写真に残したまなざしと時間を、来館者の皆様と共に巡ることができるように構成しました。新緑の森を歩き、滝と出会い、御灯祭の炎に包まれた後、真っ白な雪を踏みしめ、満開の桜へとご案内いたします。

写真は単に目で見えるものではなく、身体で感じるものであることがわかる鈴木理策の世界へ、この機会にぜひ足をお運びください。



《White》2007年 ©Suzuki Risaku

→ 講演会

『持続するまなざし』

飯沢新太郎(写真評論家)×竹内万理子(写真評論家)×鈴木理策
日時: 9月15日(土) 15:00~17:00 申込締切日: 9月7日(金)

『熊野: 聖地の歩き方(三重県共催)』

植島啓司(宗教人類学者)×鈴木理策
日時: 10月6日(土) 15:00~16:30 申込締切日: 9月19日(水)

事前申込制 定員: 各回50名予定
参加費: 各回1000円(友の会会員各500円)/会場: 1階創作室
申込先: メールアドレス workshop@syabi.com
FAX 03-3280-0033

→ フロアレクチャー

担当学芸員による展示解説を第2・第4全曜日の午後2時より行います。
参加ご希望の方は、観覧券もしくは当日消印の半券をお持ちの上、会場ロビーにお集まりください。

→ 展示室座談会

『熊野』 中上紀(作家)×鈴木理策
日時: 9月29日(土) 18:00~19:00

『桜』 前田英樹(フランス思想・映像身体論)×鈴木理策
日時: 10月13日(土) 18:00~19:00

『雪』 中谷美二子(アーティスト)×鈴木理策
日時: 10月20日(土) 18:00~19:00(予定)

閉館後、2階展示室内で開催します。
参加ご希望の方は、展示室でお待ちください。

→ 都民の日 特別コンサート

『雲龍(笛奏者)コンサート』

日時: 10月1日(月・都民の日) 18:30~20:00
会場: 2階展示室
定員: 先着70名(予定)

B1F

地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

11月3日(土) ▶ 11月25日(日)

写真新世紀東京展2007

New Cosmos of Photography TOKYO Exhibition 2007

□ 入場無料

○主催：キヤノン株式会社 ○共催：東京都写真美術館

◆詳細ホームページ：canon.jp/scso

キヤノンの文化支援活動の一環として行っている「写真新世紀」は、新人写真家の発掘・育成・支援を目的に今年で17年目を迎えました。これまでに国内外で活躍するオノデラユキや佐内正史をはじめ多数の写真家を輩出し、いまや新人写真家の登竜門としても認知度の高い公募展です。今年の公募には、約1300名の応募がありました。本展では、6組の優秀賞・約30組の佳作受賞作品および、昨年グランプリを受賞した高木こずえ氏の新作をご紹介します。フレッシュで力強い作品の数々をお楽しみください。



写真新世紀東京展2006より
2006年度グランプリ受賞者 高木こずえ氏作品展示風景

○お問い合わせ≫ キヤノン(株)コーポレートコミュニケーションセンター
文化支援推進室 写真新世紀事務局 03-5482-3904

B1F

地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

10月13日(土) ▶ 10月28日(日)

第18回日本写真作家協会展 第5回JPA公募展

□ 入場無料

○主催：日本写真作家協会 ○協力：東京都写真美術館

◆詳細ホームページ：http://www.jpaphot.com/

今年で18回目となるJPA展は、日本写真作家協会の会員による217点の作品が出展されます。また第5回目となる公募展には全国から2,173点の応募が集まりました。その中から入賞・入選作品約163点を展示いたします。

○お問い合わせ≫ 日本写真作家協会 03-3535-6251

B1F

地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

12月1日(土) ▶ 12月9日(日)

第8回上野彦馬賞展

九州産業大学フォトコンテスト受賞作品展

□ 入場無料

○主催：九州産業大学/毎日新聞社

◆詳細ホームページ：http://www.kyusan-u.ac.jp/hikoma/

21世紀に羽ばたく若い写真家の発掘と育成を目的とし、わが国の“写真の祖”として尊敬されている「上野彦馬」の名を冠した「上野彦馬賞—九州産業大学フォトコンテスト」。9月15日まで募集される作品から、入賞した作品をご紹介します。展示会です。

○お問い合わせ≫ 毎日新聞福岡本部事業部 092-781-363

B1F

地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

12月15日(土) ▶ 2月17日(日)
2008年1月2日(水)～1月4日(金)は年始特別開館

文学の触覚

Bungaku no Shokkaku - Intersection of text / media on literature

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円
□ 中高生・65歳以上 250(200)円

○主催：東京都 東京都写真美術館
○共催：講談社
○企画協力：講談社「群像」/NHKエンタープライズ
○協力：工作舎 ほか

()は20名以上の団体および上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

◆詳細ホームページ：http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

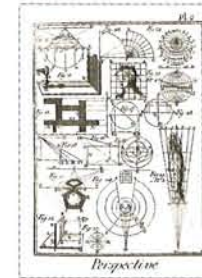
映像展「文学の触覚」では、視覚芸術・メディアアートと純文学の世界との接点である「見る・読む」をテーマとして、現代に活躍する文学作家とメディアアーティストとのコラボレーションを実現いたします。展示構成としては、メディアアート・インスタレーションとしてテキストを耳で聴き、目で見ると同時に、小説の中に描かれた風景の再現、古典作品へのオマージュの制作などを行い、本来は読む人のイメージにゆだねられる文学作品の世界を、さまざまな形で視覚化します。そのほかにも参加作家とアーティストのトーク、朗読会、特集刊行なども予定しています。文学と映像メディアを独自の視点で結びつけ、時には共存し、時には競い合うその交差を通じて、新たな領域や表現を開拓し可能性を探ってみませんか？見る人に反応するインタラクティブ・インスタレーションによって、暗闇の中で手のひらにこぼれる文学と映像の美しさを、この機会にぜひ体験してみましょう。



森村泰昌「なにものかへのレクイエム」2006年



ジャン＝フランソワ＝ニスロン
「奇妙な遠近法」より「隠し鏡」
的な装置の図 1638年



デイドロ&ダランベール
「百科全書」より「アナルフォーズ」
の図 1778-81年頃

参加予定作家/展示資料

平野啓一郎/中西泰人/川上弘美/児玉幸子/松浦寿輝/minim++/舞城王太郎/石井陽子/森村泰昌「薔薇刑の彼方へ」/「紙型」(協力=工作舎)/収蔵品・貴重本「光と影の大いなる術」「自然魔術」「百科全書」「ラ・ナチュール」ほか

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

友の会無料 | 三越カード割引 | アトレカード割引

12月15日(土) ▶ 2月17日(日)
2008年1月2日(水)~1月4日(金)は年始特別開館

土田ヒロミのニッポン(仮称)

□一般 500(400)円 □学生 400(320)円 □中高生・65歳以上 250(200)円

()は20名以上の団体および上記カード会員割引料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都 東京都写真美術館/産経新聞社
○協賛：株式会社ニコン/日鉱金属株式会社/エプソン販売株式会社/株式会社ポーラ/富士フィルムイメージング株式会社

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>



「緋・俗神」1980-2004年より



「新・砂を数える」1995-2004年より

1960年代終わりから写真家として活動を始めた土田ヒロミは、日本の土俗的な文化、ヒロシマ、高度経済成長、バブル経済などのテーマを通して、変貌する日本の姿を撮り続けています。氏の視点は常にユニークで、作品ごとに明確なコンセプトを持ち、日本という国に対する問題意識を、実験的ともいえるアプローチで表現しています。

本展では、当館が重点的にコレクションした土田作品に加え、最新作を含め氏の作家活動の軌跡を一堂にご紹介いたします。パート1では、日本の行動様式や生活意識を通して「日本人」の姿を捉えた作品を5つのシリーズから、またパート2では、1976年から原爆の惨事を3部作によって

記録しはじめた「ヒロシマ」をご紹介します。さらに、パート3では、氏のセルフポートレート作品「Ageing」をビデオ作品とインスタレーションでお楽しみいただけます。新たな時代が動き始めた現在、土田作品を見ることで、日本という国と自分自身との関わりを考察する機会となることでしよう。

土田 ヒロミ Tsuchida Hiromi 1939-

福井大学卒業後、ポーラ化粧品本舗に入社する一方、東京総合写真専門学校で写真を学び活動を始める。退社後、写真家としての道を選び、日本人の「群衆の人」的文化に焦点をあてた作品を多数発表。伊奈信男賞を受賞したシリーズ「ヒロシマ」では現代のなかで風化していく戦争意識を提起し高い評価を受けた。

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

12月22日(土) ▶ 2月17日(日)
2008年1月2日(水)~1月4日(金)は年始特別開館

日本の新進作家 vol.6 スティル/アライヴ

□一般 700(560)円 □学生 600(480)円
□中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：(財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞
○協賛：株式会社資生堂/凸版印刷株式会社
○助成：財団法人 地域創造

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

東京都写真美術館がアニュアル形式で開催する「日本の新進作家展」の6回目にあたる本展は、「現代人の生と時間、その表現」をテーマに現在30代の写真/映像作家4人に焦点をあてて紹介します。出品作家の伊瀬聖子(いせ・しょうこ 写真・映像作家1969年生)、大橋仁(おおはし・じん 写真家1972年生)、田中功起(たなか・こおき 美術家1975年生)、屋代敏博(やしろ・としひろ 美術家1970年生)は、新作を中心とした作品を発表します。「スティル/アライヴ」とは、静止と運動のことであり、時

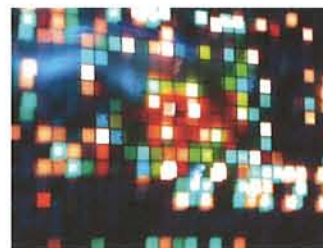
間という観点から見た写真/映像を表しています。作家たちはリアルな日常世界とたえず交わり刺激を受けながら、時間のイメージを形にしていきます。そこには過去の記憶や未来の予感、そして「いま」の時間が刻まれています。また同時にこのタイトルは、「展覧会」という場とその外側にある「現実」の比喩でもあります。作品に込められた様々な時間意識、時間表現と、展覧会を見る人、そこに関わる人が過ごしている時間が交錯し、「いまここ」を生きている感覚が共有されることを本展はめざします。



田中功起 「フラックというアートセンターからなにかを見つけ出し、街のなかを持っていき、そしてノイズを起こす」2006年



屋代敏博 「回転プロジェクト 横浜市立S中学校 教室」2005年



伊瀬聖子 「T.F.L」2003年



大橋仁 写真集「いま」より 2005年

※掲載図版は展示と異なる場合があります

1F | 1階ホール
Hall Cinema Information

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

詳細ホームページ: <http://www.syabi.com./schedule/schedule.html> ※時間等変更になる場合がございます。最新の情報はホームページをご覧ください。

Film Series
Vol.33

マザー・テレサ メモリアル

母なることの由来+母なるひとの言葉

世界中の生命あるものに伝えたい
20世紀に生きた「天使」の言葉を

世界で最も尊敬される女性、マザー・テレサ。彼女の活動を5年間に渡って追い続けた記録映像「母なることの由来」のデジタル複製版に、生前のマザー自らが語る言葉とその言葉を継ぐ者達の証言などが記録された意欲作「母なるひとの言葉」を上映いたします。

ナインマイルズ 03-5784-9922 www.motherteresa.co.jp/



○上映スケジュール: 9月15日(土)~
○上映時間: 母なるひとの言葉 10:30/14:00/17:30
母なることの由来 12:00/15:30/19:00
○料金: 一般 1,200円(1作品につき)
学生・シニア(60歳以上) 1,000円(1作品につき)

Film Series
Vol.34

国連検察官 カルラの闘い

国連が設置したルワンダや旧ユーゴでの
残虐行為を裁く法廷で活躍する女性検察官を追う

旧ユーゴスラビア紛争を生きたびたもの、虐殺によって夫や息子たちを殺され、暴力に晒された女性たちの悲痛な叫び。彼女たちの人生は、これらの戦争犯罪を組織した戦犯たちが裁かれない限り、取り戻されない。未だに逃亡を続ける当時のリーダーたちを追跡する国連検察官カルラ・デル・ポントの苦闘する姿にカメラが迫る。

アップリンク 03-6821-6821 www.uplink.co.jp



○上映スケジュール: 今秋ロードショー
詳細は左記までお問い合わせください

ミュージアムショップ「ナディップ バイテン」



◎お問い合わせ:
「ナディップ バイテン」
直通 03-3280-3279
www.syabi.com/shop/shop.html

Notebook&Card



紙の素材を活かしシンプルで丁寧に仕上げたDresscoのステーションナリー。各カラーで紙の質感を変えているこだわりの一品です。

ノート 全8色 S ¥1,300(税込)
L ¥1,400(税込)
封筒付カード 2色 各¥450(税込)

カフェ「シャンブル クレール〜明るい部屋〜」



◎お問い合わせ:
カフェ「シャンブル クレール」
直通 03-5798-2218
www.syabi.com/cafe/cafe_01.html

Beer



もともとはベルギーの農家が作業の合間に喉を潤すために自給自足で造ったビールです。さわやかにホップが香るドライな飲み口。夕暮れのように美しい黄金色は1日の終わりにぴったりです。

Saison Dupont 250ml ¥800(税込)
750ml ¥1,800(税込)

維持会員
Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。
※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.syabi.com/Membership.html>

●特別維持会員
株式会社アイデム
株式会社キタムラ
キヤノン株式会社
株式会社資生堂
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社リコー

●維持会員

- 株式会社&S BBDO
- 株式会社アサツーディ・ケイ
- 旭化成株式会社
- 朝日新聞社
- 朝日生命保険相互会社
- アサヒビル株式会社
- 朝日放送株式会社
- 株式会社アシェット婦人画報社
- アップルジャパン株式会社
- アデコ株式会社
- 株式会社アマナ
- イー・キャリア株式会社
- エスエス製薬株式会社
- 株式会社NHKアート
- 株式会社NHKエデュケーション
- 株式会社NHKエンタープライズ
- 株式会社NHKプロモーション
- 株式会社NITドータ
- 株式会社NITドコモ
- NIT都市開発株式会社
- 株式会社エフエム東京
- エルメスジャパン株式会社
- 株式会社大塚商会
- 株式会社大林組
- オムロン株式会社
- オリックス株式会社
- オリンパス株式会社
- 株式会社オンワード樞山
- 料研製薬株式会社
- カンオ計算機株式会社
- 鹿島建設株式会社
- 株式会社角川書店
- カトーレック株式会社
- カルピス株式会社
- キッコーマン株式会社
- 株式会社紀伊國屋書店
- キヤノンマーケティングジャパン株式会社
- 株式会社キューコムコミュニケーションズ
- 共同印刷株式会社
- 社団法人共同通信社
- 協和醸造工業株式会社

- キリンホールディングス株式会社
- 株式会社講談社
- 株式会社光文社
- 株式会社国書刊行会
- 株式会社コスモスインターナショナル
- 株式会社コーセー
- コダック株式会社
- コニカミノルタホールディングス株式会社
- 株式会社ザ・アール
- サッポロホールディングス株式会社
- 産経新聞社
- サントリー株式会社
- 株式会社ジェイアール東日本企画
- ジェイティービー印刷株式会社
- 株式会社実業之日本社
- 清水建設株式会社
- 株式会社写真弘社
- シヤネル株式会社
- 株式会社集英社
- 株式会社主婦と生活社
- 株式会社主婦の友社
- 關報社写真印刷株式会社
- 株式会社小学館
- 松竹株式会社
- 信越化学工業株式会社
- 株式会社新潟社
- 株式会社スタジオアリス
- 株式会社スタジオジブリ
- 株式会社スタッフサービス・ホールディングス
- 株式会社生活の友社
- セイコーホールディングス株式会社
- 株式会社青春出版社
- 株式会社世界文化社
- 積水ハウス株式会社
- 株式会社絶対空間
- セントラル警備保障株式会社
- 全日本空輸株式会社
- ソニー株式会社
- 第一建築サービス株式会社
- 第一三共株式会社
- 第一法規株式会社
- 大成建設株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社竹中工務店
- 株式会社タムロン
- 株式会社丹青社
- 株式会社中央公論新社
- 中外製薬株式会社
- 株式会社ティー・ビー・オー

- 株式会社デー・オー・ダブリュー
- 株式会社テレビ朝日
- 株式会社テレビ東京
- 電源開発株式会社
- 株式会社電通
- 東亜建設工業株式会社
- 東京ガス株式会社
- 東京急行電鉄株式会社
- 東京工芸大学
- 東京新聞・中日新聞社
- 株式会社東京スタジオ
- 東京総合写真専門学校
- 東京テトル株式会社
- 東京都競馬株式会社
- 株式会社東武ドーム
- 株式会社東京美術倶楽部
- 株式会社東京放送
- 東京外語ボランティアテレビジョン株式会社
- 株式会社東芝
- 東宝株式会社
- 株式会社東北新社
- 株式会社徳間書店
- 図書印刷株式会社
- 戸田建設株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- 株式会社ニコン
- 日外アソシエーツ株式会社
- 日産自動車株式会社
- 日本オラル株式会社
- 株式会社日本カメラ社
- 日本経済新聞社
- 日本興亜損害保険株式会社
- 株式会社日本広告社
- 社団法人日本広告写真家協会
- 日本写真印刷株式会社
- 社団法人日本写真家協会
- セントラル日本写真協会
- 日本写真芸術専門学校
- 日本写真作家協会
- 社団法人日本写真文化協会
- 日本大学芸術学部
- 日本たばこ産業株式会社
- 日本テレビ放送網株式会社
- 日本ハム株式会社
- 日本ビューレット・バックカード株式会社
- 株式会社ニッポン放送
- 日本油脂株式会社
- 日本レコードマネジメント株式会社
- 日本ロレックス株式会社
- 株式会社博報堂

- 株式会社林原生物化学研究所
- びあ株式会社
- 東川町
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 光写真印刷株式会社
- 株式会社ピックカメラ
- ヒノキ新築株式会社
- 株式会社ファーストリテイリング
- 株式会社ファンケル
- 富国生命保険相互会社
- 富士工業株式会社(スバル)
- 富士ゼロックス株式会社
- 株式会社フジテレビジョン
- 富士フィルム株式会社
- 株式会社扶桑社
- 株式会社ブラザークリエイト
- 株式会社ブリヂストン
- 株式会社プリンスホテル
- 株式会社フレームマン
- 株式会社文藝春秋
- 株式会社ベネッセコーポレーション
- ベンタックス株式会社
- 株式会社ホテルオークラ
- 株式会社堀内カラー
- 本田技研工業株式会社
- 毎日新聞社
- 株式会社マガジンハウス
- 松下電器産業株式会社
- マミヤ・デジタル・イメージング株式会社
- 丸善株式会社
- 三井倉庫株式会社
- 株式会社三越
- 三菱地所株式会社
- 三菱UFJニコス株式会社
- 武蔵大学
- 森ビル株式会社
- モルガン・スタンレー証券株式会社
- モンブラン・ジャパン株式会社
- ヤマロジステイクス株式会社
- ユニバーバ・ジャパン株式会社
- 横河電機株式会社
- 株式会社吉野工業所
- 株式会社ヨドバシカメラ
- 読売新聞社
- ライオン株式会社
- ライカカメラジャパン株式会社
- 株式会社ワコール

(平成19年7月現在・五十音順)

友の会
Supporter

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展示会のご招待・割引、上映映画の割引、写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。開館時間中(10:00~18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。
TEL:03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中はいつでもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き ※詳細はお尋ねください
その他	○写真NEWS「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ロコ洗谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など